

080516 第7回準備委員会議事録

2008年5月16日 19:00~

民青会館

【参加】石垣、大嶋、国吉、島田、逸見、前川

1、『1945-1998』 橋本公(はしもといさお)さんの武蔵野美術大学芸術文化学科卒業制作。巨大な世界地図の上で青、赤などの光を電子音とともに点滅させ、米ニューメキシコ州の砂漠でさく裂した人類初の核実験から計2053回に及ぶ核実験の歴史をたどる(06年10月の北朝鮮核実験をのぞく)。「どの国がいつ、どこで、何回の核実験をしたか。それを目と耳で知ってもらいたかった。」鑑賞後、感想交流。

石垣：音がないほうがいい。入れるならクラシックとか静かなもの。アメリカのアジ声明演説とか意味のあるものを。それが開会あいさつ、アピール提案のバックとか。間を持たせられないと思う。

島田：上手い表現、見入ってしまう。音はあると見るが、途中から音がなくなったほうが考えさせられると思う。運営的には時間の縛りがあるので、ナレーションを入れたり音楽を入れてひとつのストーリーにしたらいいと思う。

逸見：うたごえとピース バス ちばに参加してます。遅れて来たので最初は良くわからなかった。途中で考える時間があつたほうが使い方としていいと思う。光が点滅するのは資料館などで見てもらうので音があつた方がいい。作品はそのまま使った方がいいが、オープニングなど人が出入りしているところでは使えない。集中できる空間や、少人数で「見るぞ」としたほうがいい。このままでいいので、ザワザワしていないところを見たほうがいい。

大嶋：音が切れるのは音が光の数についていけないので、当時のプログラムの問題かも。当日は音はないほうがいい。作品を配布できればいいな。資料館でしか見れないものではなく、いろんなところで使いやすい。目で見れるものなので、あれをバックにナレーションを入れたほうがいい。核実験が行われていた当時、運動はどうだったのか、運動がどう影響したのか、減ってきた事実と、でもまだ減らずに残っているのと。年代ごとにどういうことがあつたのか解説があつたほうがいい。

国吉：いっぱい核実験をしているときにリラックスできるような音が出ているのが面白いので音はあつた方がいい。ずっと見てると慣れてくる。事の重大さに慣れてダレてしまうので、少し区切って。音は聞かせたいので解説的なものを入れたらどうか。使うならオープニングか、最初の方がいい。

前川：作品はちゃんと説明しておけば単品で流すことが作者の意思だと思う。買ったなら5000円、作品に責任を持つという意味表示なので配布は難しい。でも多くの人に見てほしいのということで、「つどい」で使う許可は得ている。慣れてしまうこと、深刻と思うことなど、

人によっていろいろあるが、自分はどう考えたのかと問い直す作業が大事。日常生活で考えることがないことが、慣れてしまっているということ。時間を作って感じたことをフィードバックする必要がある。それぞれの国がどこで核実験をしているのか、それはどんな国際情勢だったのかなどなど、繰り返し見て、使いたいと思ってもらえたら。

石垣：いろんな使い方は大会中にできる。何度も見せる？

前川：例えば自分が行く講演とかで、見せて感想も集めたい。

石垣：案が出てたけど、つどい、ひろば、違った見せ方でやっていったらこれからにつながるのではないかな。でもそこまでやる？

国吉：本人に来てもらったら？

前川：本人が来たほうがいいね～。9条世界会議で見て、本人も来たけど紹介されてただけで発言はなかった。簡単な説明書はあった。40代後半の人。

協議事項

2、組織体制について

前川：準備委員会になかなか人が集まらない現状運営委員会である程度決定し、準備委員会で共有するスタイルを確認したいと提案。

大嶋：運営委員会の決定はくつがえる？

前川：ある。

逸見：どんなテンポで開催している？

前川：運営委員会は随時、準備委員会は月1～2。準備委員会のMLはメルマガ状態でオフィシャルな発表として使用。

逸見：準備委員会を待たずに発信していくということ？

前川：そうです。

逸見：それぞれの組織での議論もやって、意見をあげるということもある？

前川：それも寄せてほしい。

石垣：準備委員会にしか来ない団体、人をどう意見集約するかは課題。昨年の反省もある。

前川：では、運営委員会で決定したことはすぐに情報を流して共有し、意見を寄せても会うというやり方でやっていきます。

・21万羽おりづるピースウォークについて

前川：8/3夕方頃、広島駅から出発して平和公園まで折り鶴を持ってウォークする。この時期の日の入り時間は19:10なのでその時間前に原爆ドーム前に入ってこられるように逆算して歩きたい。原爆ドーム前では昼過ぎから場所取りも兼ねて準備を始め、ライブなどもしながら人集めをする。21万羽おりづるプロジェクトに呼応しておそらく事前に相当数の折り鶴が送られてくるのでそれらを利用する。折り鶴の首飾りやプラカードにもかける。

パレードには自転車にスーパーメガホンを積んで歩く。音楽や MC で盛り上げる。通行中の青年につどいやキャンドル集会のお知らせを盛り込んだフライヤーを配る提案。

石垣：平和行進との関係は？

前川：平和大行進は8月3日はまだ広島市内に入らないので、青年独自で行う。

島田：全国で3日にツアーやるところはあるのか？

前川：まだ全国に知らせてないからないと思う。近県に重点的に働きかけるしかない。

島田：いい企画だと思う。

前川：告知を早くやらないといけない。原水協には伝えているのだがチラシはこれから。

現地担当が県労連なので全労連青年部に担当者をお願いしたい。

国吉：ちょっと厳しい。

大嶋：学生の参加がちょっと厳しい。カリキュラム変更でテストや集中講義が入ったりする。

前川：あくまで自主的なので、強制はしない。むしろお知らせをすることが重要。広島現地はいっぱい来てくれればある程度かたちになると思う。現地のボトムアップも狙いたい。ただし現地のコアスタッフは5日の被爆者訪問で忙殺されるので、あまりつながりのなかったような青年組織を回ったり、ポストインしてもらうように早くチラシを作っておろしたい。人を集めることをやってもらったほうがいい。

国吉：それではボトムアップにならない。とりあえず中央で。

前川：留学生にも広げたい。

石垣：ピースウォークとキャンドル集会両方打ち出すのは結構大変。グズグズにならないように。つどい広島・長崎、ひろばパート1・2の4本柱に21万羽おりづるピースウォークの5本柱になったつもり。原爆ドーム前のキャンドル集会をしっかりとやるならそれぐらいのつもりで。

前川：キャンドルウォークではなく、ピースウォークとキャンドル集会。ウォークは折り鶴を持って、キャンドル集会をアピールしながら歩く。

石垣：日帰り組の時間を考えると、明るいうちに始めて、後半の点火で暗くなっているように。

前川：担当が決まったら、それから具体的に議論していくことにしよう。

大嶋：全学連の立ち位置は？

前川：準備委員です。

国吉：前川さんがピースウォークを担当してほしい。

前川：じゃあそれで。誰かサブをつけます。

石垣：国際会議とかあるし前段の準備が大変なのに、前川はできない。他から引っ張ってこないといけない。

前川：誰か探します。

志穂：近隣広島と青年に主体になってもらうようなつくりが必要。ここだけではできない。

石垣：どれだけ付きっ切りになれるかが問題。誰か探そう。

前川：それで行きます。

・本番までの日程と分担

前川：運営委員会で確認した担当者（つどい広島：西村、つどい長崎：野村・国吉、ひろば1：島田・五十嵐（要請中）、ひろば2：石垣）を確認したい。

学習のひろばについて

前川：さらに、分科会12 学習のひろばの担当者を全学連の大嶋さんをお願いしたい。学習のひろばの内容は、世界大会に参加する人がどんなことを深めたいのかアンケートを取り、それに基づいて組み立てたい。

石垣：学習分科会でアンケートを集め、それに沿った形で内容を決めるのは動きが遅くなりそうで怖い。講師への依頼も遅くなるし、こちらも提案しながらアンケートを集約しないといけない。

大嶋：学生の声しか聞けないけど。

前川：それでもいい。

石垣：アンケートはそれぞれの組織にまわして集約する。

大嶋：どれぐらいの期間で集める？

石垣：3週間ぐらい。

前川：長すぎても集まらないし、反映させることができない。6月6日締め切りで。アンケートの集約結果とプロットを準備委員会で出したらどうか。そういうことでいきます。

前川：会場は固定椅子なのでグルーptークは困難、プログラムで工夫しないとけない。

石垣：日程表について、終わってから報告集会とか後処理をどうするかの日程を考えないとけない。

前川：次回運営委員会で議論します。

ひろばパート2について

石垣：ひろばパート2はおりづるプロジェクトのセレモニーを兼ねるとしているのが運営委員会の案。この準備委員会で確定したい。

島田：ひろば2の時間帯は？

前川：16時半から武道場。

大嶋：例年のやり方は好き。自由に交流できるのがいい。－昨年は灯ろうを作ってたので、今年は折り鶴を折るスペースとかみんなで何かを作るのがいい。

石垣：自由に交流するというもとのコンセプトは残しつつ、どう折り鶴を入れるかということを考えながらセレモニーの要素を付け加えたい。つどいで完結すべきかどうかはどうですか？

逸見：朝から参加している人もいるよね。

石垣：それはある。すみわけをどうするかも重要になってくる。

大嶋：昨年はみんなにパート2に行けと勧めたがみんな内容を知らなかった。他と比べて知名度が低い。あれ以上人数がくると会場は狭いこともあるが。規模はいつも通りでちょうどいいのでは。

前川：海外代表とのフラットな交流もできる。「つどい」だけ来る人に、それでは全然深め足りないということを伝えて、世界大会を通して成長できるということで参加者を集めていきたい。

石垣：これまで担当していた者としても、位置づけがはっきりしていないからこそ自由にできた一方、忸怩（じくじ）たる思いもある。自由度が下がってしまうこともあるが、位置づけがあがることで参加者がたくさん来てくれるならそれもいい。自由度をなくさないように、どういうセレモニーにしてくように考えたい。

逸見：最初から原爆の子の前に集まって、それから武道場に移動して何かやる。像の前からピースパレードしながら武道場に行くのはどうか。

前川：式典の前日でその日はたくさん人がいて、100人以上の集会は無理かも。

大嶋：パート2のいいところは途中で入ってきても疎外感がない。自由のなかに暗黙の了解みたいのがあって、それぞれやりたいことをやっても仕切る人が出てきて、みんなで何か始まる。そういう感じで折り紙配って、折って、それを持ってパレードしたほうがいい。

前川：みんなで何かひとつのことをやるということも入れて、自由な雰囲気も維持する。

石垣：それは大前提。持ち帰って案を出します。

ブログについて

石垣：ブログについて、発信の仕方は重要な課題なのでウェブについて少し時間を。

前川：世界青年のつどいブログを作った。http://www.antiatom.org/youth_rally/ 今後は21万羽おりづるプロジェクトを中心に情報をアップしていく。

石垣：ブログがあり、試験的にやっているミクシィで議事録をアップしててMLもあって、それぞれどのように活用するか。これまでは準備委員会で決めるという足かせがあったが運営委員会だけでどんどん決めていく感じになるのは怖い。これからどう使い分けていくか意見がほしい。それ以外のところでどうやって情報を吸い上げるのかの案を出したらどうか。

大嶋：MLはどれくらい入っている？

前川：MLは運営員会で少数。あとはメルマガ、一方的に情報を受け取る者。

大嶋：メールは情報を伝えるときの補佐的な役割しか果たさない。忙しかったり溜まったりすると読まなくなるので結局のところ直接会わないと。しっかり準備委員会の位置付けを高めないと「どうせ運営員会で決まるから行かなくてもいいか」ということにもなる。

石垣：運営委員会は頻繁に開かれる。準備委員会の補佐をどれだけするのが大事。

大嶋：今日の資料はメルマガに出している？ブリーフケースに入れるのは？

石垣：あげられるものとあげられないものがあるが、やり方のひとつ。

前川：細かいことを怠らないのが重要。

石垣：とにかく返事を入れることを徹底することが重要。

逸見：うたごえではほとんど返事はない。相手がどう受け止めているのかが重要。来ないから意見がないわけではないので、くみ上げる工夫が大事。

石垣：これから具体的なことが進めば意見も出てくるはず。顔を知らない人にも意見を出してもらうためにどうするか。

前川：なるべく会う方がいいが、最終的には電話だろう。

石垣：この人からは必要というのは押さえつつ、広く。いろんな方法を使い分けてそれぞれ機能させていく工夫が必要。

逸見：準備委員会の場所は決まっているの？集まる場所で集中的に集まってもらう人を働きかけたら？分からないなりに関わってもらう。この運動で繋がれることが有意義。

前川：意見を取り入れながら、自覚を促すものにしていきたい。それぞれの特色を活かして、アナログも頼りながら努力していきたい。

・つどい第1次プログラム案について

前川：「つどい in 広島・長崎」第1次案について提案。

08年5月16日 核兵器なくそう・世界青年のつどい2008準備委員会
つどい2008 in ヒロシマについて たたき台メモ

会議にご参加のみなさま。広島でのつどいについて、運営委員会内で担当をする予定の西村です。本日の会議に参加できませんので案メモを託します。これは個人的な構想（妄想）ですので、どしどしご意見をお寄せください。

つどい準備委員会運営委員会・西村（日本平和委員会）

日時・場所；8月4日 17:30～20:00（2時間半） 広島県立総合体育館・武道場（3区画）

テーマ；「継承と発信」

全体の構成（案の案）

3部構成。各部ごとに進行役を変えてみるのもよいかも。随所に身体をほぐせる企画を。

【1】核兵器の真実

・OP：DVD 上映・世界の核実験『1945 - 1998』（10分）

- ・開会のあいさつ：テーマの解説&折鶴プロジェクトについて、簡潔に
- ・被爆者の証言：映像を交え、できれば対話形式で。(被爆者講演会にしない)

【2】継承と発信～私たちの試み

(司会はへーかつの方に)

- ・OP：サウンドカー的な雰囲気(BGM、映像、再現、など)
へーかつの代表から、06年の最後のあいさつでの提案からの総括。的な...
- ・海外代表の発言
- ・各地の運動リレートーク：折鶴宣伝、証言集会など。
被爆者の話を聞いて感じたこと、伝えたいこと、反応、困難なことなど
(海外代表と日本とをできれば交互に。司会の腕のみせどころ)
- ・折鶴プロジェクトフィナーレのさわり：映像、なければ画像で構成

【3】継承と発信～核兵器をなくし、戦争を止めるために

- ・シンポジウム：新たな核戦争の危機とそれを生み出すもの、広がる核廃絶の国際的世論、それぞれを“リアル”に感じられるような中身に。コーディネーターは主催者で。
(これまでに出了案では、CNDのブルース氏、堤未果氏など)
- ・アピール提案&閉会あいさつ：2010年に向けての行動提起

その他

市長に来ていただくかどうか。

形岡七恵さんに登場していただくのもいいなあと思います。本大会に出演されるかもしれませんが、しかし本大会では話さきれないであろう中西さん(亡くなった被爆者)への思い、歌の意味などを、歌手であると同時に平和活動家として、発言していただくのはいかがでしょう。&折鶴バンドライブも。

以上

逸見：いろんな見方で「継承と発信」を考えられるものもいい。

国吉：参加者が主人公になれるように。

石垣：時間がないので、今日決めなければならないことをピックアップすると、秋葉市長に来てもらうのかどうかとシンポジウムのスピーカーについて。

前川：開会総会に来るかも。

大嶋：そうだとっても青年のために来てほしい。

島田：「つどい05」で市長が来た時、すごいと思ったので、ぜひ来てほしい。

前川：被爆地の市長として、また平和市長会議の会長として国際社会の最前線で核兵器廃絶のために頑張っている市長に、青年に向けたメッセージを話してほしい。

大嶋：シンポジウムのスピーカーに関しては、シンポのテーマがなぜ青年に対してやるのかが見えない。

国吉：こちらが何を伝えたいのかをまず決めてからスピーカーに依頼しないと順番が逆になるのでは。

前川：西村さんに伝えます。では次に長崎について。

世界青年のつどい in 長崎プログラム案

全労連：野村昌弘

【目的】

今いちど、核兵器廃絶の思いをあらたに、被爆体験や原水禁世界大会の運動の到達を継承し、青年らしい平和運動の発展を決意し、確認しあう場とする。また、被害者でもあり加害者でも日本の青年として、海外の青年たちと交流し未来に向けてなにが必要か、世界平和のために自分にはなにができるだろうか思いを新たに連帯していく集会とする。

【企画意図】

たとえば言葉が通じなくても、宗教や肌の色が違ってても、十分コミュニケーションできることを私たち青年が証明する。「コミュニケーション」の前には、武器も核兵器も無意味だということ、実感する。一方通行のプログラムではなく、参加型、双方向型。人数が少ないからできる濃い企画を。

【アイデア】

企画 オープニング、見るだけのものではなく、みんなで参加して一緒に歌って踊れるような。はずかしくて参加できない青年がここでいてもよい。ラストまでに、その壁が突破したくなるような、ひきつけるものを。

企画 例 「10分間で何人と握手できるかな」恥ずかしがったり、お互いをイメージで誤解したり、そんな「壁」をとっばらうための企画。平和を行動と肌で感じる。日常生活から変えてみようかなという動機をつくる。

〃 例 「フリー・ハグ」欧米のように、お互いを認め合う。これも短時間でたくさんの人とこなす。ただ、女性が嫌がるようなら失敗。

【プログラム(案)】

16:00	集合・ミーティング	60分
17:00	開場	30分
17:30	オープニング()	15分

17:45	あいさつ	3分	
17:48	DVD 上映 (1945_1998)	15分	
18:05	被爆者の証言	15分	
18:20	質問、感想交流	15分	
18:35	世界の青年から (4名*3分+)	15分	
18:50	日本の青年から 1分間スピーチ	10分	
19:00	まとめ	3分	
19:03	企画 ()		
19:13	アピール採択、あいさつ		
19:23	移動	5分	
19:28	キャンドル着火	5分	
19:33	キャンドルウォーク	40分	
20:20	エンディング (みんなで歌)	10分	
20:30	終了、片付け		

石垣：幕の内弁当状態。場面転換が多いので、時間が延びる可能性が高い。キャンドルウォークに出発する時間をもう少し遅くするか、全員でやらないということにしてプログラムのタイムスケジュールに余裕を持たせてほしい。

国吉：座って集中できるものと、コミュニケーションできるものならどちらがいいですか？

大嶋：後者のほうがいい。

前川：人数の少ない分、長崎らしさとしてコミュニケーションに重点を置いた方がいいが、「21万羽おりづるプロジェクト」は盛り込みたい。

国吉：持ち帰って伝えます。